

国連とわたし ～国際会議に参加したユース代表報告～

2024年3月、若い二人が国際会議とそのNGOフォーラムに参加しました。その会議は、国連内の唯一の女性機関であるUN Womenが事務局となって運営する「第68回国連女性の地位委員会(CSW68)」(会期:3/11～3/22)です。

CSWでは毎年、世界中のジェンダー問題をその年のテーマに沿って討議し、合意結論を形成、経済社会理事会(ECOSOC)に報告・提案します。総会(第三委員会)で採択された合意結論は、各国のジェンダー政策・女性政策に反映されます。今回のCSW68のテーマは、「ジェンダー視点に立った貧困対策、制度及び財源調達に取り組み、ジェンダー平等とすべての女性・少女のエンパワーメント達成を加速する」です。日本女性監視機構(JAWW)からユース代表として派遣された、千葉奏美さんと山内彩さんに、感想報告をお寄せ頂きました。若いお二人が国際会議で感じたことは?世界のセッションの醍醐味を皆さんと共有します!

CSW68で感じた自由な声

JAWW派遣CSW68ユースレポーター 山内 彩

◆日本や自分に足りていない「粘り強さ」

私はよく、海外で行われている抗議の報道をテレビで見ます。ある社会問題に対し団結する姿勢、その力に私は圧倒されます。一方で、日本ではこうした外的発信をする人を日常で見かけることは多くありません。また、日本人の気質だから発信しなくても当然だと言われることに対しても、私はさほど抵抗を感じませんでした。なぜなら、抵抗がない日本は平和だからです。しかし、いざ整然とした日本を離れ、CSW68という世界の縮図に飛び込んだ私は、鵜呑みにしていた理屈が崩れ始めた気がしました。

3月11日～15日に開催されたCSW68では女性の貧困を優先テーマとし、閣僚級会合やサイドイベントが行われました。各国の平等担当大臣やNGO代表が集い、草の根から政府規模で貧困政策や実態が語られました。例えば印象的だったのは、ケープタウンに暮らす女性農家の政治参画でした。登壇者は彼女らが住む自治体の政治家と農業政策について意見共有できる交換会を紹介しました。10万もの女性農家が参加するようになり、政策に声が反映されたと聞き感動しました。政治が見落としていた女性が自ら集結し、政治家と対等になるまでの努力と粘り強さは、日本や自分に足りていないと実感しました。

日本に関しては派遣されたユースや政府代表団の交流もありました。個人単位で政府の方と関わるのは初めての経験で、期待感が高かったです。ただ、いざ終わると複雑な気持ちが残りました。ある女性が「草の根活動の当事者はCSWのような国際会議に出席し、声を上げる権限すら与えられない」と強く訴え、多くの賛同の拍手に包まれた瞬間に目を輝かせたものの、ユースとして意見表明する機会に出席できた恵まれた立場を、私は十分に活かせなかったと感じ、悔やしかったです。

◆CSWから持ち帰ったもの

帰国の際にご縁があり、アメリカ在住の女性の方と仲良くなり、帰国後、お食事をしました。ゆったりとした都会の時間を過ごす中で、「日本人は頑張っているが現状はどうなのか」と、喧かれました。CSWでは毎日のように、現状を変えようとする人々に刺激されました。私は平和という現状を維持する日本は好きです。しかし、陰に置かれた理不尽を放っておく現状を変えたいと、渡米して一層思いました。

親身にエールを掛け合う女性活動家、国連の前で響き渡る国際協調への不満、あるいは誰かがひっそりと地面に記した不戦宣言。ニューヨークでは異なる価値観であっても、自らが知識や自己の背景を発信し、解決に程遠い問題に働きかけようとする力を持った人々がいました。こうして、女性問題に関わらず、世界が直面する危機を乗り越えるには、意義のある行動を恐れず、また選んだ行動に対する多様な意見を受容できる、寛容で責任感溢れた、強烈な意思を持つことがひとつなのかと思ひ、それがCSWから持ち帰った最大の発見でした。



国連ウィメン日本協会東京の第33回チャリティコンサート 朗読コンサート【ちいさな曲芸師 バーナビー】



2023年11月25日土曜日の午後、文京区本駒込にある今井館 聖書講堂で国連ウィメン日本協会東京の第33回チャリティコンサートとして風流楽(ふる〜ら)の野田香苗さん(朗読)と渡邊温子さん(チェンバロ演奏)の朗読コンサート【ちいさな曲芸師 バーナビー】が開かれました。

会場の今井館聖書講堂は、明るく日ざしがたっぷりとおそく素敵な空間です。やわらかい光の中でコンサートはおこなわれ皆様のご協力もあり、お陰様で会場は満席でした。

風流楽(ふる〜ら)は2007年結成され、朗読を野田香苗さん、楽曲構成とチェンバロ演奏を渡邊温子さんが担当する音楽ユニットです。詩や物語の朗読とチェンバロの穏やかな弦の響きのコラボレーションを追求されていて、ピンと張りのあるお声の野田さんとやさしく穏やかな雰囲気のある渡邊さんの演奏は息がぴったり。素敵な女性ユニットでした。

ちいさな曲芸師 バーナビー はバーバラ・クーニー再話・絵 末盛千枝子 訳 (株)現代企画室の絵本で、物語の舞台が13世紀のヨーロッパであることから、古典的な雰囲気を持つ魅力的な作品です。主人公のバーナビーが、自分の夢を追い求めるために困難を乗り越える姿を描いています。通りすがりの修道士が寒い路上から連れ帰った修道院で、自分の才能を信じて努力する姿は感動的でした。彼が曲芸師として成長していく過程で、仲間や父親との絆、自分自身を見つめる事が優しく語られています。

コンサートでは物語の背景にあるヨーロッパの風景や文化も興味深く、チェンバロと朗読のコラボレーションは、まさに【朗読と音楽で聴く絵本】。開場にりと響くお話と音楽が想像力をかき立て私たちが物語の世界に引き込みました。

心温まる物語とその世界観にすっかり没頭。絵本なのにまるで映画を見ているような感覚になり、聖書講堂にいたのもあって、クライマックスは本当にチャペルでバーナビーを見ているかのようで、温かい気持ちになれるコンサートでした。風流楽様からは、CDの売上からご寄付もいただきました。

入口で清泉女子大学 安齋ゼミの学生さんが、陸前高田の復興に関係が深いLisaチョコレート販売してくださり、利益全額をご寄付いただきました。皆様に心より感謝申し上げます。(中曾美穂子)



2024年度 国連ウィメン日本協会 総会報告

2024年2月24日に婦選会館において通常総会が開催されました。橋本ヒロ子理事長、福岡史子UN Women日本事務所長(昨年11月に着任)、檜森隆伸顧問(新任)の挨拶に続いて議事に移り、2023年度の事業・決算・監査報告、および2024年度の事業計画・予算並びに2024・2025年度役員選任の議案は全て可決されて承認されました。

この一年は世界各地で様々な紛争が激化し、また大規模な地震災害、気候変動に伴う自然災害など、支援の必要性が拡大しました。昨年度は前年度の募金・寄付金から総額17,623,815円をウクライナ、アフガニスタン、ロヒンギャ難民キャンプ、スーダン、ガザ危機への支援、さらに従来から継続している「女性に対する暴力撤廃国連信託基金」、UN Womenのコア資金を加えた9つの支援先に拠出しました。また、昨年度の募金・寄付金の総額22,654,983円は今年度に支援先を決めてUN Womenに

送金されます。

広報活動を活発に行い、企業や法人等からの寄付総額が増加していますが、さらにUN Womenの認知度を高め、世界の女性や少女への支援の輪を広げるために、今年度からは新たに街頭などでの対面による個人寄付の導入が計画されています。そのため2024年度から専門家の方に顧問として参画していただき、実施に向けた準備を行っているとの報告がありました。

昨年はUN Womenについての理解を深めるための広報活動も新しい媒体を使いながら活発に行われ、また啓発活動としては「国際女性デー」「国際ガールズデー」「女性に対する暴力撤廃国際デー」などに合わせてオンラインセミナーが開催されたこと、国際的な連携・協力事業についての報告なども行われました。(阿部幸子)

2024年度協力協定団体ネットワーク会議開かれる

午前中の通常総会終了後、午後から1時間半にわたって協力協定団体ネットワーク会議が開かれました。昨年度末で日本協会よこはまが解散、残り5団体から4団体(北九州、大阪、東京、さくら)が出席し、活動報告、意見交換が行われました。今回はホームグラウンドでの開催でもあり、東京からは会長、副会長の3名の参加となりました。

昨年度のネットワーク会議では、情報発信や募金活動を行いやすいように適切なツールや資料の提供をお願いして実現しましたが、日本協会からは一層の協力を進めてくださるとのことでした。各団体とも切実な悩みである会員の高齢化が一年経ってますます深刻化している実態があり、若い会員や役員の獲得が切実な願いとなっています。その中でも各団体の特性を生かして活動が展開されており、

寄付や募金が集まりにくい中でも、支援先を特化するなどの工夫を凝らして成果を上げている団体もあり、大変参考になりました。

橋本ヒロ子理事長からは、今後は実態に即した協力の仕方が必要であるのご発言もいただき、日本協会との協力体制を見直すことの必要性も検討課題に上がりました。国連ウィメンの前身、ユニフェムの時代から拠出金の支援が私どもの活動の柱でしたが、現状を踏まえて広報活動に力点を置き、日本協会が始める街頭募金をともに支えることなど、新たな形で協力関係を築いていくことの合意がなされたことは、今回のネットワーク会議での大きな成果でした。(阿部幸子)



国連ウイメン日本協会主催 国連「国際女性デー」2024年チャリティ イベント ウクライナ支援 チャリティコンサートに参加して



国連ウイメン日本協会主催「カテリーナ チャリティコンサート 平和への祈り」が、3月5日に国際文化会館にて開催されました。「ウクライナの女性を忘れないためにこのコンサートを開催しました」と主催者側は挨拶しました。日本協会のウクライナ支援コンサートは2回目になります。

カテリーナさんは演奏前の挨拶の中で、「ロシア・ウクライナ戦争が始まって2年が経ちました。多くの女性が兵役についている。子どもたちの前で性暴力を受けたりしている惨状は止むことではない。・・・母を歌う歌は多く、7割ほどを占めている。ふるさとも母のように捉えている。」と語りました。

カテリーナさんが演奏するウクライナの民族楽器バンドウーラは12世紀の頃から使われはじめ、弦は65本あり、重さは8kgもあるとのこと、毎日抱えていると筋トレが必要なくらいであるとか。もともとは12～13本の弦で、2～3kgぐらいのものであったそうで、日本の琵琶に似ています。爪で弾く楽器の中では弦が一番多いそうです。ウクライナでしか作られていないとのことでした。

カテリーナさんはウクライナのプリピチャ生まれ。チェル

ノプリ原発から2.5kmしか離れていない街です。生後30日に原発事故に遭い、一家は町から強制撤去させられました。6歳の時に原発で被災した子ども達で構成された音楽団「チェルボナカリーナ」に入団、海外公演にも多数参加。日本公演で訪れた際に日本に感動し、19歳の時に音楽活動の拠点を東京に移しました。日本に数少ないバンドウーラ奏者として国内外で公演、2022年からは紛争下のウクライナのために支援活動を展開されています。

どんなに時間をかけても必ず叶うという曲「ずっと青空でありますように」や日本の曲も3曲ほどありました。最後の曲「涙そうそう」はカテリーナさんの大好きな曲だそうで、透き通った哀愁のある声とバンドウーラの音色がぴったりと合っていました。ウクライナに残る人々や親類を思う気持ちを胸に秘め、冷静に落ち着き払ったカテリーナさんの佇まいの中に癒されることのない深い悲しみが込められていると思うと、胸がいっぱいになりました。(城倉純子)

※ウクライナ国防省によると、ウクライナ軍で働く女性は6万人。2020年には全体の15%超に。そのうち4万2000人以上が軍務につき、うち5000人が前線で戦っている。ウクライナでは女性を本人の意思に反して徴兵することは法律で禁じられているので、従軍女性すべてが志願兵ということになる。さらに自軍内では性差別の戦いがあるという。

参考：BBC NEWS JAPAN

国連ウイメン日本協会東京 上映会 ～世界の女性と少女に希望の未来を～ 「燃え上がる女性記者たち」

女性の声を持つ、しなやかで強い力について深く掘り下げたドキュメンタリー！感動と共に力づけられ、励まされることでしょう。是非皆様にご紹介したいと思います。どうぞ会場にお運びくださいますように。

7月12日(金) 14時(受付13:30～) 上映時間93分
1,000円

東京ウイメンズプラザ 視聴覚室
(東京都渋谷区神宮前5-53-67)

チケットは、メール (unwomentokyo@unwomentokyo.org)
またはFAX (03-6913-9964) でお申し込みください。
チケット代金のお振込み後、チケットをお送りします。



申し込み・
会場案内の詳細はこちら



たくさんのご寄付・ご協力をいただき有難うございました。

(敬称略)

寄付者 (2023年10月21日～2024年3月31日)

野田香苗・風流楽 清泉女子大学安齋ゼミ 縄田眞紀子
阿部幸子 太田恵子 中山正子 本間美智子 天野尚子
金子裕子 渋川弘子 匿名1件

新入会者

中島美恵 天野由美子
吉川富久子 佐藤裕子
紀伊美香子



編集後記

2014年～2015年に当会の会長であった安陪陽子様がご逝去され、この3月にお別れ会が開かれました。当会の前身母体である「ユニフェム日本国内委員会」設立の当初からご尽力され、その記録「18年史」を編集長として纏められています。史を捲り乍ら、東中野の事務所で奮闘した日々を懐かしく想起しています。(J)

今回のNHKの朝ドラ「虎に翼」は法的に女性の地位の低かった昭和初期の日本を背景に、法曹界に挑む女性たちの勇気や苦勞が描かれており、毎回楽しみに見ております。日本では女性の地位確立の法も大分整い、各界で活躍する女性も増えましたが、まだまだ女性の地位は低いと感じております。(H)

国連ウイメン日本協会東京

News Letter

Vol.34

発行人: 会長 城倉純子

発行日: 2024年 4月 25日

〒167-0042 東京都杉並区西荻北3-11-3
サンコート西荻窪 105

Tel/Fax 03-6913-9946

<http://unwomentokyo.org>

E-mail: unwomentokyo@unwomentokyo.org